

感想文

北川 欽造

皆様と一緒にハイキングを楽しんでみようと思い、今回参加させていただいた。今年になり亀岡丹波七福神めぐり、5月のクリーンハイクに次ぎ、やっと3回目の山行(?)となった。

最近出歩いていないから、持ち物の準備に余念がなかった。天気は雨も降らず、上々と解っていたのに一応恰好をつけ品々を小さなザックに詰め込んだ。自分の弁当くらいは作ろうと思ったが、絵筆を持たない毎日は始まらないので、一時間あまりアトリエですごした。朝食を駅前の牛井ですませ、集合は1番だった。

電車を何回か乗り換え、58年も前に叡電で岩倉まで1時間半もかけて通学したのが懐かしい。当時古い民家が疎らに散在し、学舎は鉄筋2階建てだったが、教室は雨が陸屋根に染み込み、雨のあと2日ほどポタポタと教室に漏っていた。天井にはコケまで生えていた。近くの宝ヶ池遊園地といっても、原始林に囲まれた古い沼のようだったが、一周ハイキングやピクニックは昨日のように懐かしく思い出す。



鞍馬寺山門

電車は貴船駅に近づく、新緑映える森の中の勾配を駆け登る。駅から森の中の車道をゆっくりと出発し足慣らしする。河床座敷をしつらえた粒ぞろいの料亭・旅館が建ち並び、スタッフの皆さんが朝早くから掃除打ち水をして客待ち準備をしている。春の桜、紅葉の季節、夏も冬も古都の奥座敷として、さぞ情緒満点だと納得する。小1時間で貴船本宮に着いた。家族の平穏を祈るより世界の平和と幸福を祈る。奥の院は古い杉の巨木が乱立する神苑で、しばしの休憩をとる。

貴船から鞍馬山への参拝口の西門から今日一番の本格的登行が始る。よく整備された参拝道では外国の観光客も混じる。階段を登りに登り平坦地の息抜き場所がほとんどない。

期待した貴船の巨樹と共にもう一つ、絵の良きモチーフとなる木の根道をじっくりと味わい歩を進める。小高い起伏を巡り、幾百万年も前、地球の霊王として創造を司ってきた壮大な伝説の魔王がここに奉安されている。そのような伝説と神聖な聖域を数ヶ月で書きあげては不作法であり失礼だ。霊界の無限の歴史的境地の雰囲気は筆を重ねて数か月数年を

掛けても完全とはいかないだろう。鞍馬寺の堂塔が点々と坂道に続き、快感なる下りは大好きで転がるように降りられる感じ。そして仁王門をくぐり俗界に戻った。

大原に向け薬王坂にとりかかる。人家が終わった時点で昼食をとった。静原集落から江文峠へ、民家の庭に花が咲き、小川が清く流れ、豊かで長閑な田園風景が続く。古き時代の田辺のふるさとと重ねめぐらす。大原の里に下り立ち、田畑では洛北特産の柴漬けの原料シソの植え込み風景がのどかだ。

尊厳満ち、変化に富んだ自然と人間の生活の多様性に接する事が出来る旅だった。この旅を前日から見据え、期待し、当日は超早朝から起きだし、朝食のレストランでは牛井を食べたが、七味をふりかける折、キャップの穴ふたまで取って降りかけたものだから、満々入った瓶の七味が全部掛ってしまい、七味井になった。店員さんに七味をきれいに取ってもらったが、今日の失敗第一号。帰りでは、満足感と心地よい疲れが全身に満ち、帰りのバスでは熟睡してしまいバスの中に置き忘れられた。これが2番目の失敗。皆様には唯一のヒヤリハットとなり心よりすみませんでした。

そのペナルティーが感想文押し付けられとなったが、同様の事件は以前もあったな。それもやはり大原方面で往く時だった。バスでの大原方面山行は小生にとっては満足とともに丑寅の表鬼門山城だ。

3度目はないように心に決めた。ちよとばかり自信はないが、皆さんよろしくね。



大原タンボさかさ富士